



環境美化 出合い つなぐ

一般廃棄物および産業廃棄物の収集運搬、資源リサイクルなどの事業を通して地域環境と生活環境の美化に力を尽くすエスシーエス(草加市)。1977年に埼玉中央清掃としてスタートして以来「きれいな街づくり」をモットーにしてきた。半世紀近いその歩みは人と街をつなぎ、暮らしを支える営みでもある。



本社 第7駐車場

埼玉中央清掃は77年7月、現会長の野崎友義氏が26歳の若さで立ち上げた。浄化槽の清掃をメイン業務に、中央住宅(越谷市)の仕事を受け負ったことで急成長。2001年に現在の社名になると廃棄物収集、建物の総合管理にも力を注ぎ、売り上げを拡大させた。

環境産業であるエスシーエスにとって欠かせないのがSDGs(持続可能な開発目標)への取り組み。17の共通目標のうち「住み続けられるまちづくり」「海の豊かさを守ろう」など8項目に重点的に取り組むことをうたった「SDGs宣言」を掲げている。

具体策の一つとして、業務用車両の洗車に雨水を活用。01年、本社敷地内に3トンの貯水槽2基を設置し、雨水を貯蔵できるようにした。スタッフは現場から戻ると、この雨水を使って自分の車両を洗車する。貯水槽2基分で約20台の車両を洗車でき、約30%の水道代節約につながっている。

食品のリサイクルもエスシーエスの重要な業務だ。専用車両でスーパーマーケットや飲食店などを回り、食べ残しや売れ残りなどを回収。この生ごみから瓶や

缶などの異物を取り除いてから農事組合法人百姓倶楽部(茨城県下妻市)のリサイクル施設に持ち込む。ここで生ごみはたい肥や家畜の飼料になり、生産農家で再利用される。

また、生ごみの一部はニューエナジーふじみ野(ふじみ野市)でバイオガス発電によりリサイクル処理もされている。

23年11月からは太陽光発電もスタートした。草加市にある本社屋根の全面に設置された太陽光パネルによる環境への貢献度を年間発電量に換算すると、燃料は約1035リットル、二酸化炭素で約765キロの抑制につながり、森林約0.9ヘクタールの吸収量に相当するといえる。

廃棄物の収集運搬はもちろん、食品リサイクルもエスシーエスが介在することで循環の輪が出来上がっている。野崎会長が「人と街をつないできた」と同社の歴史を振り返るゆえんだ。

21年7月に就任した2代目の鈴木努社長は「この会社の新たな可能性を求め、挑戦する勇気を備えることが私の使命。新たな出会いをつなげられるよう精進していく」と話している。



国指定名勝「おくのほそ道の風景地 草加松原」

未来へ To the future



人と街をつなぎ暮らしを支えるエスシーエス

プラスチックゴミは年々量が増え続け、海洋汚染、生態系への影響が世界でも大きく注目されている。同社では、自身の生活様式を見直し、持続可能な社会を目指しながら事業の発掘と推進、目標を設定する意識改革を行っている。公共冷蔵庫【コミュニティフリッジ草加】への支援や草加よさこいイベントへの応援など地域活動にも積極的な支援をこれからも行い続ける。

昭和52年(1977)

(有)さいたま中央清掃設立



1977年7月(昭和52年)若干26歳(現会長の野崎友義)が将来の仕事を見据え、(株)埼玉中央清掃を設立。当時浄化槽清掃が主流だったが、(株)中央住宅(中内社長)に認められ、新規住宅を一手に紹介され、一躍急成長した。

平成13年(2001)

エスシーエス株式会社に社名変更



2001年(平成13年1月)現代のニーズに沿った、社名をエスシーエス(株)とし、再スタート。仕事内容も一変し、廃棄物収集及び建物総合管理にも注力し売上げ等が飛躍的に向上した。

平成15年(2003)

九州石油草加弁天SS設立



2003年7月(平成15年)九州石油草加弁天SSオープン。パッカー車等(100台)多くの車輛を保有のため、自社給油できることにより、給油価格が安定し、給油がスムーズに進んだ。

平成23年(2011)

食品リサイクル保管積替施設設置



2011年(平成23年)国の許認可変更に伴い、排出される事業社廃棄物を食品リサイクルに回すよう特化され、専用車を購入し、同時に保管積替施設を設置。



- ▶社名 エスシーエス株式会社 ▶代表者 野崎友義
- ▶所在地 <本社> 〒340-0002 草加市青柳2丁目19番10号 TEL: 048-936-1234
- ▶創立年 1977年 ▶従業員数 190名
- ▶事業内容 一般廃棄物・産業廃棄物収集運搬業、建物管理清掃業、警備業務、ガソリンスタンド運営